

# 学校関係者評価委員会 開催報告書

専門学校 岡山情報ビジネス学院

## I. 学校関係者評価の概要と実施状況

### 1. 学校関係者評価の目的

専門学校岡山情報ビジネス学院の自己点検・自己評価の結果を、卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者に報告し、ご助言・ご意見を頂くことで、自己評価結果の客観性を高め、学校運営の課題について継続的な改善を図っていく。

### 2. 学校関係者評価委員

名前	所属	区分	出欠
早崎 律貴	スマートスケープ株式会社 VX 事業部・開発部 部長	卒業生	出席 (OnLine)
石崎 公生	株式会社アドボックスフォトグラフィ 代表取締役	PTA	欠席
山本 涉	医療法人 和香会 倉敷スイートホスピタル 運営企画室 室長	企業等委員	出席 (OnLine)
守井 照久	税理士法人 創明コンサルティング・ブレイン 代表社員	企業等委員	出席
豊田 東	バイオシステム株式会社 岡山国際ホテル 総支配人	企業等委員	出席
佐藤 新之助	株式会社イトン イートンちどり保育園 取締役	企業等委員	出席 (OnLine)
真鍋 洋志	菅公学生服株式会社 取締役	企業等委員	出席
山下 秀男	株式会社イケル 代表取締役	企業等委員	欠席
北牧 涼輔	NAYUG 合同会社 代表	企業等委員	出席
浦谷 友章	自衛隊香川地方協力本部 東讃地区隊長	企業等委員	出席
畑 嘉昭	株式会社 トスコ 常務取締役	企業等委員	出席
芳原 慶真	コーセーエンジニアリング株式会社 総務部 総務課長	企業等委員	出席

### 3. 学校関係者評価委員会の開催状況

開催日時 令和5年8月22日(火) 16時00分 — 17時30分

開催場所 専門学校岡山情報ビジネス学院 9階会議室

## Ⅱ. 学校関係者評価委員会報告

学校関係者評価委員の方々に、自己点検・自己評価報告書をもとにして、学校運営状況の説明報告を行った。

### 1. 重点項目について

【教務】誇りある OIC ブランドの軸「OIC5段階教育プログラム」確立に向けて、教育基盤を形成する

教育基盤の形成を確立することで、OIC 教育の基準が統一化され各人が自信をもって教育者として力を発揮できる。それが教師の定着さらには学生の質の向上につながる。

【広報】学生の人生そのものを応援する学校として、また、学校の教育力や学生の成長・学修成果において根拠を持って、正直に、かつ魅力的に伝えることにより、高校生や保護者・高校教員から信頼され、選ばれる学校になる。

学校全体の 3 つのポリシーだけでなく全学科の3つのポリシーを確立し、それに基づいた広報を行うことで、高校生に選ばれるだけでなく、入学後意欲をもって取り組み、成長できる準備をする。また、積極的な情報公開を広報的に行うことを通して、他の学校がまねできない広報ができ、専門学校として、社会全体から信頼される状況をつくる。

【キャリア】アフターコロナを見据えた本校独自のキャリア・就職支援プログラムを教務との連携しながら実施する。また、学修成果として卒業生の活躍や企業の評価を可視化し、本校教育へのフィードバックを行う。

学生が、就職が決まる前提として、社会人基礎力など人間力を身につけ、卒業後社会で活躍し、柔軟にキャリア展開できる人材になるべく成長する。

【事務】教育の質の向上に対する学内基盤の再構築

教育の質の向上に向けた、内部監査と自己点検自己評価から学校関係者評価委員会を連動化し、教育課程編成委員会を含めた評価制度を活かした教育の質の向上を図る。次回の第三者評価の再受審に向けた整備を進める。

【留学生】日本人と肩を並べて対等に活躍する人財育成

グローバル化が進む中で、本校で日本語力、IT 技術(4 分野 システム系、Web 系、CAD 系、制御系)を身につけた留学生たちが、日本人と肩を並べて日本で活躍し、日本人社員にもグローバルな意識を与えられるエンジニアの育成を目指す(母国に帰っても日本語力や日本文化を活かせる人財として活躍)。

### 2. 基準項目について

#### (1)基準1 教育理念・目標

【報告】

募集要項・HP 等の中で、「建学の精神」「教育理念」「教育方針」および「Admission Policy」「Curriculum Policy」「Diploma Policy」を明文化し周知している。特に前記の「3 つの Policy」はオープンキャンパスの中でも必ず触れて参加学生・保護者の方に伝えている。また、出願書類の中にも、「3 つのポリシーに」についての記載欄を設けて自身の考えを記入してもらっている。

【課題・今後に向けて】

一方、ここ数年で学生の多様化も顕著になっており、学校に求めることも、それぞれの個性が強く表れる傾向も増えている。必ずしも就職が前提ではなく、まずは卒業、まずは自分の居場所としてなど、今までの教育理念や目標をベースにしつつ、社会状況・学生・保護者・現場の教職員、それぞれの声を拾い集めて、県とも連携を取りながら、メイトルームの導入など対応の幅を広げていきたい。

【特記事項】

2024 年度入学生に向けて、学科毎の 3 つのポリシーをもとに、カリキュラムブックを作成し、オープンキャンパス等で参加者に説明している。

【委員からのご意見】

①目標、問題点が明確に示されている。

②各評価委員からの話を聞いても、専門性に特化した詰め込み教育に期待する声は無かったかと思います。企業においてもダイバーシティ経営を意識するのは当たり前となってきていますので、学校教育の段階においても企業の流れに合わせておく必要があるかと思います。

そういう意味でも、メイトルームの導入は良いことだと思います。ただ、社会人への通過点として、ベースとなるヒューマンスキル(コミュニケーションスキル、創造力、発想力、行動力、持続力、積極性など)は、業種を問わず必要不可欠であり、結局のところ将来的に生き残る、勝ち残る人の基本であると思います。”

③生徒満足と学校運営の両立。

課題も山積しているかと思いますがブレずに学校教育に励んでもらいたいと思います。周囲から応援される学院です。期待しています。

④カリキュラムブックの整備など学生目線で色々な改善をされている点は素晴らしいと思います。が、整備することが目的となっている部分が垣間見られます。

例えば、カリキュラムブックの各カリキュラムで学ぶ、身につけるべき事項を細かく定義して、その内容を学生自身で、学生同士で、教師で、評価できる仕組みがあれば良いのではないかと思います。

我々民間企業でも同様の取り組みをしています。スキルマネジメント、エンゲージメントサーベイで調べて頂ければと思います。

⑤「生き抜く力(自立)を身に付ける教育」という理念は、学生の多様化が顕著になってきた現在の状況だからこそ、さらに重要になってくると考えます。

⑥企業が必要とする人材と教職員の授業内容がマッチしているか詳細が分からない。

⑦毎年、専門知識習得を目指した多くの学生が受け、卒業生の就職率も高く十分に評価できると考えます。

⑧生きる力の養成は多岐にわたりますし個人個人でも違うので大変だと思いますが、よろしくお願いします。

#### 【評価基準】

学校関係者評価、自己評価ともにすべて適切である

#### (2)基準2 学校運営

##### 【報告】

グループ内で、中期計画(3年期毎10年)と単年度事業計画を策定し、学校運営の方向性を定めている。また、学校運営を進める新年度の現場の組織体は11月から検討を進め、年末までには基本的な組織案・会議体案を決定している。教職員の採用については、専修学校の設置基準に基づき採用を行っている。さらに、就業規則・給与規定などの各人事規定は平成25年に社労士の指導のもと大幅な見直し作業を行い、平成26年度より適用。以降、随時改定を重ねながら現在に至っている。

##### 【課題・今後に向けて】

教職員の採用および育成は、ここ数年の大きな課題となっている。採用手法は様々な媒体を利用しながら行っているが最適解は見つかっていない。また、育成については、内部研修・外部研修と実施しているが、特に外部研修については、しっかりとした計画性をもって進めていく必要がある(学科や部署単位だけではなく教職員個人に応じた計画も含めて)。

##### 【委員からのご意見】

①教職員の認識向上については、私の部署も同じ思いです

②教職員の採用は大きな課題ですね。専門学校においては、社会人経験を持つ教員が重要かと思います。現場を知らなければ、学生に伝えられる熱量はどうしてもぬるくなります。

教員採用と育成は最大限力を注ぎ、努力していただきたいと思います。”

③子どもたちにとって、周囲で関わる大人たちの影響は多大です。

是非、人材育成には積極的な活動を願います。”

④DX 化による、教員の業務量圧縮や情報の共有などを強く推し進めることが必要かと思いますが、DX 化の前に IT 化＝デジタル化の整備が必要かと思われます。

また、ここ数年 教員不足の課題が継続されている気がしますが、採用以外での打開策の検討も必要かと思いません。

我々の業界でも同様に IT エンジニア不足がとりざたされていますが、近年 生成系 AI が著しい成長をみせており、プログラムコードを産み出すことができるようになってきています。近い将来 プログラムできるエンジニアは不要になる恐れさえあります。

同様に生成系 AI の活用から教師不足を補える可能性もあるかと思えます。

新たな視点での見直しが必要かと思えます。”

⑤2-4-25 の教職員の教育が今後の多様化する学生対応に対する必要事項であると考えます。

⑥関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取組みが行われているか(研修等の効果を評価し、文書により記録しているか)

ゲームを中心としたクリエイティブ系のジャンルに関しては、未経験の先生方が勉強をしても経験・技術的に難しい部分があるかと思えます。根本的に、業界未経験の人が勉強してどうにかなるジャンルでは無く、例えば情報系でプログラムを触っていたのでゲームを作れるはずというのは、卓球やっていたからテニスも出来るはず、というくらいの乖離があります。そのため短期的な研修をしてどうにかなるジャンルではないと感じています。また、簡単に採用出来るジャンルでもありません。一方で我々のような外部の企業では、技術以外の指導(生活態度や就職に対する責任など技術以外の全般)が難しいため、先生方の得意とする部分と外部の専門家が得意とする部分をうまく組み合わせる事が必要かと思えます。

⑦教職員の採用について、OIC 出身者からの登用をさらに積極的に推進してはと思います。

⑧専門的業務が常に進化し新たなスキルが必要になります、関係企業へ情報収集し教育内容を進化させる。

⑨中期・単年事業計画を策定、進めているものと思えます。

⑩教職員の方のスキルアップも忙しい中行うのも大変です、例えば学生が行ったインターンシップ先で同じ事を半日でもやってみるのはどうでしょうか。

#### 【評価基準】

学校関係者評価、自己評価についてほぼ適切、適切である

### (3)基準3 教育活動

#### 【報告】

・「自立」を教育テーマとして先行き不透明な時代であっても、自分の力で生き抜ける知識と人間力を養う。3つの自立(経済的、精神的、社会的)を促し、学生の人生を応援する。

・専門力を備え、自立した社会人を育成するためのカリキュラムを配備。年2回の教育課程編成委員会にて外部委員からの意見を取り入れ継続した改善を実施。

・各学科のカリキュラムマップを表記した、カリキュラムブックを作成し体系的に専門性を育成

・情報系学科リニューアル。AI・セキュリティなど時代のニーズに沿った専攻・コースを配置

→次年度はビジネス系についてもリニューアルを検討。学校全体として新しい時代に沿った教育体制を構築する

・授業の質保証として学生の授業アンケートを実施。課題点を担当教員にフィードバック

・キャリア教育として、全学科にキャリアサポート室が1年次からキャリア授業を実施

・専攻分野の企業・団体との連携授業の拡充

→以前の委員会で SDGs の取り組みの一環として、デザインゴールズなど一部の学科の取り組みとして行えるように

なった。今後さらなる発展を目指したい。

・他の高等教育機関との連携について、保育学科の近畿大学との提携以外にも、新たに岡山商科大学との提携を実施。OIC 卒業後、大学の3年次に編入して教職課程を履修することで情報系の教員免許取得可能に。高校現場に専門学校を理解している教員を輩出することで、専門学校の認知・理解度を広める。

#### 【課題・今後に向けて】

・質保証を目的とした授業の定期的な観察

学生アンケート等による改善が中心となっており、第三者的な授業観察を行う制度や仕組みがないため、教師の自主性に任せた改善に留まっている。

→ 教師間の授業見学・改善の仕組みの構築を検討し第三者的な目線を取り入れた授業改善を行う計画を立てる。

#### 【委員からのご意見】

①インターンシップ等を取り入れ、卒業後に即戦力として活躍出来る取り組みをされている

②カリキュラムブックの作成は良いですね。最近、入社間もない社員の離職が増加傾向にあると感じています。これは当社に限った話ではありません。概ね、理想やイメージと実際の業務のギャップに耐えられなくなり、いとも簡単に辞めてゆきます。離職の増加に関して、その責任の一端を学校側に求めるのは論外であり、企業責任にほかなりません。ただ、ある程度業種を理解できている状態でスタートを切れば企業側の対応もやり易くなることは間違いありません。また、カリキュラムブックに関しては各専門分野に関連した企業・団体との連携拡充とありますが、広く関連企業との連携を行い、本当に必要とされているカリキュラム内容にブラッシュアップされていければと思います。

③カリキュラムブックなど時間軸で提示し、準備を大切にす姿勢は好ましい。

④課題に対する改善策として、学生向けのカリキュラムブックと同様に教員 Job 向けのスキルマップ、スキルボックスを作成して、教員のスキルマネジメントをする仕組みの導入をお勧めします。

⑤どうしても質の低下の可能性が高い学生に対して、どのように教育を行なうか？考える必要があると思います。

⑥カリキュラムブックの作成は、学生にとっても、高校の先生にとってもとても有益であると

考えます。課題として教員間の授業見学・改善の仕組み構築にはぜひ取り組んでいただけたらと思います。”

⑦現場実習を早い段階で行い最終目標を認識させたのち学生からのアンケートを取り

身に付けたい教育内容を明確化し習得する。

⑧多様化される価値観に対応しているように見える。

⑨卒業生へのコンタクトや意見をもらう事がたくさん出来ればすごい財産になりそうです。

#### 【評価基準】

学校関係者評価、自己評価についてほぼ適切、適切である

#### (4)基準4 学修成果・教育成果

##### 【報告】

・学生状況の把握のため基礎力サーチを実施。例年よりも基礎学力の低下や学習習慣の低下の傾向。

→ 単元ごとの確認テストや、期末試験前の対策など学力低層へのフォローを拡充

・令和4年度就職実績 就職内定率 98.6% 専門職への就職 82.3%

→ 学内での取り組み

①就職会議:グループ内での情報共有と試験対策 ②企業(外部)連携:支援が必要な学生に対して求人開拓

→ 外部環境

環境の追い風:人員不足、企業のDX化、内製化の促進

・離職調査

→就職後2年半の離職率は、前年度と比較して5.4ポイント低下。離職理由として、「異業種への転職」「体調不良」「モチベーション低下」「結婚」などが報告として挙がっている。また、コロナ禍により事業を縮小したことが退職に影響したという報告もあった

#### 【課題】

・基礎学力向上に対する取り組み。

→動画授業などを活用したアダプティブラーニングの推進、リメディアル教育の強化

・就職後の活躍に必要な能力の向上

コロナの影響もあり、他者とのコミュニケーションに苦手意識を持つ学生も増えてきた印象。実社会でも情勢を反映して求められる力として要請が上がっている。学内の中でも学内・外問わず様々な属性の方との関わりが必要

→学校行事の復活、キャリア実習等外部に出ていく学習の向上させる

#### 【委員からのご意見】

①よく把握されている

②離職調査に関しては、先ほども述べましたが採用した段階からは企業努力と考えます。

社会情勢や経済環境によっても数値は異なってくると思います。

学生に向けた情報提供という活用で良いかと思えます。

③基礎学力と仕事力はイコールではないと考えている。

引き続き一人一人に向き合って適性を高めてもらいたい。

基礎学力の低位置と高位置との幅が広がったとあるが、広がりやどう埋めるかということ以外に、多学科からなる専門学校が強みを活かし、その人本来の個性に合う学科へのスライド制など検討するのも一つの手かと思えます。

④基礎カリサーチで、④基礎学力が低く、意欲が低い学生の意欲をどうやってアップさせるかが先生方の力が問われると考えます。個人的には、意欲さえあれば、時間がかかっても、基礎学力向上も、応用的な学力向上も可能だと思いますので、講義外で複数の先生方が関わったり、OB・OGとの交流の場をさらに増やしたり(昔は私もこうだった等)、実務家教員(卒にとらわれない発想を持っている)に関わってもらったり、と一人も置き去りにしないフォロー体制を目指す方向がいいのではないかと考えます。将来、社会の行き詰まりを打開する人財は、④にいるのではないかと考えています。

⑤それぞれの学生の勝るものを引き出しその強みを伸ばし活かせる企業を目指す。

相乗的に弱みを克服

⑥コロナ下で活動制限と経済的低迷もあり、基礎学力の低下が気になります。

#### 【評価基準】

学校関係者評価、自己評価についてほぼ適切、適切である

(5)基準5 学生支援

#### 【報告】

退学抑止について

・期中に教員向けの退学抑止に関する研修を実施。目的意識の統一と現在の学生の気質に沿った指導について意思統一を図る。

・退学状況抑止として、学習習熟度チェックの徹底や、退学予防の観点からの日頃の声掛け、定期ガイダンスを実施

#### 【課題】

・精神不調者に対する対応

精神的に不安がある学生が増え、うつ病や、発達障害などの課題を抱える学生が増加。担任の教師も学生層の

振れ幅が大きく教師の個別対応にも限界がある。

→メイトルームの設置・リモート授業対応

**【特記事項】**

- ・ 同窓会の運営・卒業生に対するフォローアップ
- ・ 奨学金などの保護者連絡・連絡ツールの整備

**【委員からのご意見】**

①卒業生の声については、卒業してからの将来像がイメージできるので、有効だと思います。自衛隊のパフレットにも入れています。

②メンタルヘルスケアに関しては社会問題ですが、容易な対応ではありません。

対応・処置に関しては教員の学習も重要となってきます。さらに、第三者機関とも連携が必要となりますが、退学の大きな要因となっていますので、真剣に取り組む必要と価値があると思います。”

③あまり数字で右往左往しないことも必要ではないか？

④定期的な情報発信をする仕組みはとても良いかと思えます。

また、卒業生の在籍する企業とのマッチングなどできる仕組みがあると良いのではないかと思います。

昨日のイトン社の困りごとなども解決できる手段を卒業生が在籍する企業でもっている可能性は十分あると思えます。

卒業後も色々なつながりで OIC の輪が大きくなれば、おのずと人が集まってくるようになると思えますので。”

⑤先生方の負担が大きいので、先生方のフォロー体制を考えていくのが、大事だと思います。

⑥卒業生の就職先への訪問及びヒアリング、実習の受け入れ交渉

⑦貴校は精神不調者にも十分に支援されているように見えます。

**【評価基準】**

学校関係者評価、自己評価についてほぼ適切、適切である

(6)基準6 教育環境

**【報告】**

毎年5月に私立専修学校報告書の提出があり、土地・教室・実習室・管理教室の状況について提出し、県への報告とチェックを受けている。

インターンシップ(企業実習)も学生全員参加を義務付けており、企業様の協力を頂きながら実施している。

防災安全管理は、ビル管理会社と連携し、消防防災訓練は年2回実施、設備の点検は業者や消防に依頼し法定点検を行ってもらっている。

**【課題・今後に向けて】**

校舎が商業ビル内にあることで、学校と企業との運営上の違いから、防犯の面で制限される場面がある。セキュリティ会社とも相談しながら対策を講じていく。

**【特記事項】**

防災・安全管理については、学校が単独ではなく、ビル管理会社と連携して行っている。**【委員からのご意見】**

①良いと思えます

②安心・安全な教育環境の整備は重要だと思います。現在どのような状況なのかわからないので、準備が進んでいれば聞き流してください。予期せぬ自然災害が増加してきている昨今、BCP・BCM(事業継続＝学校運営継続)に関しても考えておく必要があるかと思えます。

③防犯面については、近年の状況を鑑みるとセキュリティ対策は低いように思えます。

誰でも簡単に教室に入れてしまう状況は、改善をされた方が良いとは思えます。

近年防犯カメラ画像を分析して許可されている人物かを識別できる仕組みもありますので、まずはそのような仕組みから導入するなど検討をされてみてはいかがでしょうか。”

④インターンシップ制度は貴重な経験だと思いますので、ぜひ継続いただけたらと考えます。

⑤企業の防火防災の意識は高く、授業の中に自衛消防隊の取組及び行動を教育課程に入れる。学生のフロア限定エレベーターセキュリティの導入提案をはいかがでしょうか。

⑥駅前のいい場所に校舎があり、恵まれていると思います。

⑦防災訓練は企業でもらっていますが、しっかりと行なって下さい。

#### 【評価基準】

学校関係者評価、自己評価についてほぼ適切、適切である

### (7)基準7 学生の受入れ募集

#### 【報告】

入試制度の大幅な見直しを行った。学生や高校に対して、新たな入試区分やその意味・目的をしっかりと説明していく。

#### 【課題・今後に向けて】

オープンキャンパスから独立して、新たに入試説明会を開催する。

#### 【委員からのご意見】

①学生減が当年の業績に直結するものと思います。学生募集に関しては費用対効果を見て工夫をしていただければと思います。

②オンラインでのオープンキャンパスなども検討されてみてはいかがでしょうか。

③オープンキャンパスで OIC に決めている学生が多いと伺いました。オープンキャンパスのさらなる充実が、学生受け入れの要となると考えます。OB・OG、学生、実務家教員とともに柔軟な発想でぜひご検討のほどよろしく願います。

④カリキュラムの中に有名企業や話題の人物に講演や交流が持てる場を設ける。

OICに入ることで自分のやりたいことが見つけられるかもしれないと期待を持たせる。

⑤人口減少問題がありますが、専門技術を取得できることを伸ばして頂ければいいと思いました。

#### 【評価基準】

学校関係者評価、自己評価についてすべて適切である

### (8)基準8 教育の内部質保証システム

#### 【報告】

毎年5月に私立専修学校報告書の提出があり、教職員の略歴を含めた教職員名簿の提出、法令で定められた義務項目の実施状況など県への報告とチェックを受けている。

各規程は学校運営での記載と同様、社労士の指導のもと下記の通り運用している

個人情報保護規定 …… 平成 26 年施行、平成 29 年一部改訂

ハラスメント防止規定 …… 平成 26 年施行、平成 26、29 年・令和 4 年一部改訂

公印規定 …… 平成 25 年施行

マイナンバー取扱規定 …… 平成 27 年施行

ストレスチェック規定 …… 平成 28 年施行

教職員研修規定 …… 平成 25 年施行



## 内部質保証

自己点検自己評価 実施・公開

学校関係者評価委員会 実施・公開

教育課程編成委員会 実施・第4様式情報公開

文部科学省職業実践専門課程認定

厚生労働省専門実践教育訓練給付指定講座認定

第三者評価認定

文部科学省高等教育修学支援制度機関要件認定

### 【課題・今後に向けて】

関連法令等、学校全体の教職員でしっかりと共有する機会が不足している。年度計画を立て、定例的な研修の実施

### 【特記事項】

令和5年私立学校法が改正。令和7年4月より施行される。ガバナンス強化による理事・評議員・監事の再構成や役割の見直しなど、寄附行為の変更を含めて準備を進めていく必要がある。

### 【委員からのご意見】

①ガバナンス強化に関しては徹底実施を求められます。

規定の整備に留まらず、教職員までの内容徹底、意思統一が重要となりますので、勉強会など定期的、継続的に実施する必要があるかと思えます。”

②e-learning の仕組み導入を検討するのも良いかと思えます。

日程を決めての研修よりも柔軟に対応できるようになるかと思えます。”

③私立学校法の改正に向け、準備下さい。

### 【評価基準】

学校関係者評価、自己評価についてすべて適切である

## (9)基準9 財務

### 【報告】

財務報告につきましては、下記 URL にて情報公開を行っている。

開校以来、毎年単年度収支はプラスの状況、また借入金なしでの学校経営を行っており、財政的基盤は安定して推移している。さらには、将来の設備投資への積立も行っている。

### 財務管理

予算立案 → 理事会・評議員会への報告承認 → 月次毎に予算／実績管理と報告 → 決算書の作成

→ 公認会計士による監査 → 監事への報告 → 理事会・評議員会への報告承認 → 情報公開

### 【課題・今後に向けて】

学生規模と経営バランスの見直し。現時点では経営基盤は安定しているが、学生数の減少による収支バランスを中期的に見直し、将来に向けても継続的に経営基盤の安定を図る。

### 【特記事項】

令和5年末より約2年間にわたり、校舎の修繕計画に基づき第2次の修繕作業に入る予定。今回は、空調設備のリプレイスと照明のLED化および換気設備の機能強化を中心に行う。

### 【委員からのご意見】

①優れていると思えます。

②企業も行っていますが、脱炭素や電気料の削減に取り組まればと思えます。

### 【評価基準】

学校関係者評価、自己評価についてすべて適切である

(10)基準10 社会貢献・地域貢献

【報告】

県や市からの委託事業の受託や教室の貸出事業、また県や市・日本赤十字社や保育園・社会福祉施設からのボランティアの依頼に対して学校体制での協力を行ってきた。

【課題・今後に向けて】

ボランティアや講座の開設等について依頼があれば積極的に引き受けて、実施しているが、本校からの計画立案や実施はまだまだ十分とは言えない。

【委員からのご意見】

- ①昨日の話を聞くと、ボランティア活動について、精力的にされていると思うのですが、自己採点が低いので、どうなのかなと思います
- ②地域への貢献活動は、学校にとっても学生にとっても大きなメリットがあると思います。積極的活動の継続が大切だと思います。”
- ③素晴らしい立地なので、教室貸し出し事業は社会的にも意義があることだと考えます。
- ④様々な企業でSDGsの取組が活発化しています。特に岡山では他県に比べ早くから企業としての取組意識が高いので学校でも学生と一緒に認識を高めては
- ⑤コロナ下での貢献活動、大変でしょうが若い方の活動貢献は社会を元気にします。

【評価基準】

学校関係者評価、自己評価についてほぼ適切、適切である